

平良港における国際旅客船拠点形成計画について

【国際的なクルーズ船の寄港拠点の形成に向けて】

《背景》～「訪日クルーズ客2020年に500万人」実現に向けた課題～
東アジアにおけるクルーズ市場の拡大により、日本の港湾への寄港需要が急増し、係留施設の事前確保が困難になることから、安定的な寄港が維持できないおそれがある

クルーズ船社 自ら寄港地に投資をして、受入環境の向上を図る意向を示す

国が、官民が連携し、クルーズ船受入拠点の形を形成する新たなスキームを考案

《国際旅客船拠点形成のための新たなスキームの創設》

公共 係留施設(岸壁)等受入環境の整備

民間 旅客施設等への投資⇒係留施設(岸壁)の優先的な使用权を取得

《国際旅客船拠点形成までの流れ》

カーニバル社

連携

宮古島市

2016年12月、平良港に国際クルーズ拠点を形成するための計画書(目論見書)を国に提出

2017年1月31日 「官民連携による国際クルーズ拠点」を形成する港湾に選定
2017年7月8日 港湾法の一部を改正する法律施行
2017年7月26日 平良港が国際旅客船拠点形成港湾に指定
2017年12月18日 港湾管理者が拠点形成のための計画(下段)を作成

今後は、旅客施設等に投資を行う民間事業者(カーニバル社)と協定を締結し、施設の整備・運用を行い、拠点形成に向けて取り組みます。

【平良港における国際旅客船拠点形成計画書の概要】

1. 国際旅客船拠点形成に係る取組方針

＜クルーズ船受入の現状及び課題＞

- ・現在平良港では、下崎地区の埠頭に5万トン級までの船が接岸しており、5万トン級を超える船は同地区の泊地で沖泊にて受け入れている。
- ・下崎ふ頭から市街地までは約3km離れている。また、沖泊の場合はテンダーボートを利用して上陸するため、全ての乗客の移動に往復約5時間かかる。
- ・専用のCIQ施設がないことから、仮設のCIQスペースを設けて対応している。


＜拠点の形成に係る取組方針＞

今後とも増加が見込まれるクルーズ乗客の受入の中核となる施設として、CIQスペースや商業スペースを常設した、利用客の利便性に資する旅客ターミナルを建設し、当該施設を中心に平良港のクルーズ拠点形成を目指す。

2. 拠点形成に向けて取り組む事業(国際旅客船取扱埠頭機能高度化事業等)

大型クルーズ船(対象船舶:14万トン級)及びその乗客に対応可能な施設を以下のとおり整備予定。

整備主体	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
国	係留施設(岸壁)・泊地・臨港道路			拠点供用開始
カーニバル社	旅客ターミナル施設			



3. 係留施設(岸壁)の優先的な利用

岸壁(防波堤外地区)及び旅客ターミナル施設が供用された場合、カーニバル社は他のクルーズ船社に先立って岸壁の利用予約が可能。

優先利用可能期間
20年間

優先利用可能日数
300日/年

カーニバル社は、利用予定年の前々年の7月から12月までの間に優先予約を確定させる。利用予定年の前年1月以降の予約については、カーニバル社と他船社を公平に取り扱う。

《カーニバル社の係留施設(岸壁)優先予約のイメージ図》

年	N年												N+1年												N+2年											
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月						
	優先予約可能期間																								優先予約対象期間											

4. 目標

＜2020年＞

- ・目標とする国際クルーズ拠点の姿
→東アジアの主要な寄港地
- ・目標寄港回数：250回

＜2026年＞

- ・目標とする国際クルーズ拠点の姿
→フライ&クルーズの拠点港
- ・目標寄港回数：310回



▲マジェスティックプリンセス(14万トン級)